

第62期事業報告書

当年度の事業概要を次の通り報告いたします。

(平成24年6月1日より平成25年5月31日まで)

1. 自然科学関連知識の普及及び啓蒙

○「自然科学書協会講演会2012」を開催した。

前期までは自然科学書協会講演会は、自然科学書フェアの期間中に同開催地で開催していたが、今期は自然科学書フェアとは分離し、東京で開催した(文部科学省後援)。

- ・日時：平成24年7月22日(日) 13:30～16:30
- ・会場：日本出版クラブ会館
- ・講師：内田 麻理香 氏(サイエンスライター・サイエンスコミュニケーター)
演題：「身近にあふれるサイエンス」
- ・講師：竹内 薫 氏(サイエンス作家)
演題：「宇宙はどうやってできたか、ブラックホールはどんなものか」
- ・聴講者106名。

2. 自然科学関連図書等の国内外への広報及び普及

○文字・活字文化推進機構等の活動に協調し、日本書籍出版協会をはじめとする出版界各団体が主催する諸事業に協力した。

○「自然科学書フェア2012」を開催した。

今期のフェアは前期末からまたがって前倒しで実施、丸善博多店において「古典・最新刊が誘う自然科学の世界」というテーマで開催した。

- ・期日：平成24年5月1日～6月27日
- ・会場：丸善博多店
- ・参加社数：42社
- ・出展点数：209点
- ・出品冊数：972冊

○「第19回東京国際ブックフェア」(TIBF2012)を例年通り後援し、協会単独ブースで展開した。

前年に引き続き東日本大震災と福島原発事故からの復興支援の特設コーナーを設け、「震災復興関連書」(エネルギー関連、防災、耐震建築、都市計画、土壌・水質汚染、メンタルケア、救急医療等)の展示も行った。また、5,000円以上の購入者に、抽選で500円の図書カードをプレゼントするなどブースを盛り上げた。

- ・期日：平成24年7月5日～7月8日
- ・会場：東京ビッグサイト

- ・参加社数：61社
- ・出品冊数：2,580冊
- ・総売上げ冊数：453冊

○海外のブックフェア等に出展し、わが国の自然科学書の海外への普及を図った。

- ・「第19回北京国際図書展示会」(BIBF2012)

当協会からは、日本事務局であるトーハン経由で、共同ブースの自然科学書コーナーへ20社、184点を出品した。共同ブースまたは数社の単独ブースも含めて面陳展示されたほか、著作権のオファーも活発であった。また自然科学系各協会の目録と各出展社の目録も展示し、それらを残らず来場者に配布した。

- ・期日：2012年8月29日～9月2日
- ・会場：中国国際会議展覧センター

- ・「第64回フランクフルトブックフェア」(FBF)

出版文化国際交流会の当協会・出版梓会・大学出版部協会の共同ブースに、当協会会員社21社、40点を出品した。

- ・期日：2012年10月10日～14日
- ・会場：フランクフルトメッセ

○当協会の英文会員名簿並びに和文会員名簿を、ブックフェアなどを通じて国内外の出版社などに配布し、協会活動の周知と翻訳出版活動への情報を提供した。

3. 著作権・著作隣接権等の普及と啓発

- JRRC（日本複製権センター）の著作権使用料規程の改定で、これまでの一律2円から4円に値上げ（暫定期間3円）されることになったため、会員に情報提供し周知を図った。併せて会員にはJCOPY（出版者著作権管理機構）への委託の一本化を推奨した。
- JCOPYの電子化許諾も盛り込む使用料規程改定について、会員への説明会に協力した。
- 著作権に関わる問題、特に著作隣接権等については、関係機関や団体の動向を含めて的確な情報を会員に提供するように努めた。

4. 自然科学の振興に功績のあった者及び自然科学書出版に特に貢献をした者の顕彰

○平成25年度文部科学大臣表彰科学技術賞の推薦団体として会員各社から当該表彰候補を募り文部科学省に2件推薦したが、今年度推薦は取り下げとなった。

5. 出版文化向上のための研究会・講演会等の開催及び関連団体との交流

○東京都印刷工業組合出版メディア協議会主催の「第15回出版・印刷人の集い」に出版梓会と共に協賛し、講演会を開催した。

- ・日時：平成 24 年 11 月 19 日（月） 16：30～18：00
- ・会場：日本出版会館
- ・講師：酒井 邦嘉氏（東京大学大学院 総合文化研究科教授）
演題：「脳を創る読書～『紙の本』は終わったのか？」

6. 機関紙・図書等の編集発行及びホームページの管理運営

○会報を年 4 回発行した（平成 24 年 7 月，11 月，平成 25 年 1 月，4 月）。

- ・主な記事は次の通り。

理事会の動向や決定の周知／各専門委員会の活動報告／出版界の主要団体代表者からの「自然科学書協会に期待すること」／自然科学各分野の著名人によるエッセイ／講演会の要約／国際ブックフェアの報告など

- ・自然科学知識の普及，当協会の活動の告知，会員増強などのために，会報を日本出版クラブ会館ロビーなどで展示配布のほか，各関連団体へも送付した。平成 24 年 7 月号は東京国際ブックフェア会場（7 月 5 日～8 日，東京ビッグサイト）にて一般向けに 900 部配布した。

○ホームページを常に最新の状態にして，外部への情報発信を行った。

- ・協会の概要を掲載し，常に更新した。
- ・会報の PDF 版を掲載した。
- ・「自然科学書協会講演会 2012」「同 2013」の案内を掲載した。
- ・「東京国際ブックフェア 2012」「同 2013」の案内を掲載した。
- ・「自然科学書フェア 2012」「同 2013」とそれに関連したイベントの案内を掲載した。
- ・当協会が主催もしくは関係した行事の内容を当協会のホームページの「ニュース・お知らせ」に掲載し，広く告知を図った。

7. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

○当協会の再販制度に対する基本姿勢は，過去 2 回にわたる廃止反対声明で明らかのようにあくまでも「維持」を原則としている。しかし，流通改善・弾力運用を含む取組みが強く求められていることを受け，「東京国際ブックフェア 2012」の会場において，出展会員社による一部割引販売などを行った。

○少子・高齢社会の税制のあり方として，消費税率の引上げが実施されようとしているが，当協会では専門書出版の特性や科学技術の振興・普及に果たす役割の大きさに鑑みて，特に軽減税率の適用を強く要望してきた（平成 23 年 7 月 14 日に「出版物の消費税軽減に関する要望書」を政府及び各政党の税務調査会などに提出）。今期も出版 4 団体（日本書籍出版協会・日本雑誌協会・日本出版取次協会・日本書店商業組合連合会）による共同声明「文化を支える出版物に軽減税率が必要です」（平成

25年3月8日)の主旨に賛同し、会員に署名活動を呼びかけるなどその活動に協力した。

○一般社団法人へ移行の実務作業を進めた。

- ・宗和税理士法人の指導の下、第61期の決算書に基づいて公益目的財産額を算出し、内閣府に申請した。

平成24年6月1日付けで「一般社団法人 自然科学書協会」の登記を行う。

6月11日 一般社団法人への移行登記完了届を文部科学大臣に提出。

7月31日 公益目的財産額の確定の申請書を内閣府に提出。

8月21日 内閣府より連絡があり、書類の修正を行う。

8月27日 内閣府より公益目的財産額の確定についての通知があった。

公益目的財産額：15,980,932円

公益目的支出計画の実施期間：4年間

○出版業界で行う諸事業(全出版人大会の開催, 出版平和堂の活動など)に協力した。

- ・平成25年5月8日に、第52回全出版人大会がホテルニューオータニで開催され受付業務などの協力を行った。

- ・平成24年10月5日に、出版平和堂第44回出版功労者顕彰会が執り行われ、当協会は出版平和堂維持団体として運営に協力した。

○当協会の活動状況を業界紙などに積極的に働きかけて報道依頼し、当協会の活動並びに存在意義を広く告知した。

以 上